

# 神小だより

12月

第10号



## 『76』と『5643』から振り返りました

ちちいちょうをはじめ様々な木々は、紅葉から落葉へ。神山の美しい晩秋に魅了されて…早20日余りが経ち、一昨日の12月21日には冬至を迎え、今冬真ただ中です。そして、今日は2学期終業の日。季節の移ろいは、イコール子供たちの成長の積み重ねの日々。2学期『76』日間を全力で頑張った子供たちに心から拍手を送ります。保護者の皆様におかれましても、2学期開催の各種行事等にご参加をいただき誠にありがとうございました。心温まるご支援とご協力に重ねて深く感謝申し上げます。

『76』は子供たちが2学期に登校した授業日数です。私は、その76日間のうち、70日(回)正門に立ち、子供たちや中学生と『5643』回のあいさつを交わしました。1学期を合わせると、8600回余りの朝のあいさつに、いつしか「おはようございます」の短い言葉に、「今日も安全に登校してくれてありがとう」「友達と仲良くね」「今日も一日がんばって!」という言葉のをせて、子供たちに届けていました。気が付けば、不思議な言葉の力、言霊を感じていました。

日本では古来から言葉には不思議な力が宿っていると信じられてきました。それを言霊と言って、声に出した言葉が実際の生活に何かしら影響を及ぼすと考えられています。今でもこの考えは生活の中に残っており、結婚式等では「終わり」という言葉を使わずに「お開き」と表現したり、あいさつや手紙の終わりには「結びに」を使ったり、受験生には「落ちる」や「滑る」などの言葉を使わないようにしたりする風習があります。

学習や生活においても、授業等の開始の「お願いします」、その終了の一礼や「ありがとうございました」の言葉も同様で、一つ一つの言葉等に、いろいろな言霊が宿っていると感じる時があります。「おはよう」「ありがとう」等の言葉は、相手に対しての敬意や感謝の思いを込めて伝えることが大切です。言葉に意識をはたらかせていると、生活のいろいろな部分で変化が現れてきます。また、目標や課題は頭の中で考えているだけよりも、声に出して言霊にしていくことで、やり遂げようとする意思が自分にも周りの人にも確実に伝わります。そして、その強い気持ちをもって取り組むことで、やがて結果となって現れてくるはずなのです。

本校の今年度の学校教育目標は『夢と志にあふれ、心たくましく生きる児童を育てる』です。2025年、年始の新年の目標や決意が『夢と志』にあふれるものであってほしいです。そして、その目標等が子供たちの学びをより一層深め、健やかに成長できるとともに、子供の輝かしい未来の創造につながるものになってほしいと願っています。今後とも、保護者の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

それでは保護者の皆様、ご家族皆様、よい新年を迎えられますようお祈りいたします。第3学期は、1月8日(水)よりスタートします。寒い時季で積雪や道路の凍結などが心配されます。また、インフルエンザ等感染症の流行にも注意が必要です。健康で安全に過ごされ、冬休み明けも子供たちが元気に登校することを願っています。

2025年もどうぞよろしく願いいたします。

学校教育目標

## 夢と志にあふれ、心豊かにたくましく生きる子どもを育成する

学校教育目標の実現に向けて、今後ともご支援とご協力をお願いいたします。

【神領小学校HP】

本校の学校教育活動や学習の様子をリアルに発信できるように、教職員が表現等を工夫をして作成しています。

今学期の更新は、44回です。ご覧いただけますと幸いです。



SMB杯タグラグビー大会に出場した神領ブルーアイス。

大会では、果敢に挑戦をし、奮闘しました。予選では同リーグ内で神領ブルーアイスを含む3チームが三つ巴となり、結果、得失点差で決勝リーグへの選出が決定するという僅差の戦いでした。惜しくもわずか1点差で決勝リーグには出場できませんでしたが、同リーグ内で決勝に出場した2チームが、優勝、準優勝という快挙を果たしました。神領ブルーアイズは、優勝したチームに唯一黒星を付けたチームとして賞賛されました。

志高く果敢に挑戦した神領ブルーアイスに大きな拍手を送るとともに、子供たちを心から誇りに思います。

